

なっているが、当福良漁協に限れば漁船漁業、水揚量共に大きく伸びていて、活気にあふれていた。

ゼミでは各々見聞してきた知識を補い合って理解を深めた。行政の側からのデータだけでなく、実際に農家のお宅、あるいは民間サイドの意見を聞くことによって、実情が把握でき、また公平な目を培うこともできた。

最終日の10月4日、またとないチャンスだったので人形浄瑠璃を鑑賞し、その帰りバスで鳴門大橋を渡ってきた。この日だけ思わしくなかった天候のせいか、渦潮は私達が期待していたほどはっ

きりしていなかった。が、小さいながらも渦を2、3眼下に見下ろすことができ、私達はしばらくの間騒然となった。

3年生最後の巡検は、こうして大変順調に過ぎた。現地の方々からは大変厚い御好意を受け、中には、地元の新聞に乗った私達の記事を見て、貴重な人形浄瑠璃の写真を見せて下さりに、わざわざ宿まで訪ねてみえた方まであり、とても有難かった。淡路島の印象を一言でいうと、島でありながらも本上に劣らぬ活力を持ち合わせた島だ、ということになる。

(10月1～4日 栗原教官指導)

## 足尾・日光巡検

木村 真理子

9月4日から6日まで、1日目は足尾町2、3日目は日光市という日程で、井内先生の御指導による足尾・日光巡検が行われた。足尾駅集合だったため、赤字ローカル線で廃止の対象となっている足尾線に乗って、足尾へと向かった。

はじめに足尾駅から足尾町役場まで行き、足尾町職員の方から公民館で足尾町の現状についてのお話をうかがった。足尾町は足尾銅山により有名であるが、昭和48年に銅山が閉山となり、現在は過疎化の問題に苦しんでいる。足尾町では人々が町にとどまるための基盤がないことが人口減少を招いているので、町は企業誘致などを行っているが、なかなかうまくいかないということだった。このヒアリングの後には足尾町のマイクロバスで案内していただき、鉱山跡と製錬所付近を見学した。鉱山跡は一步入るとたいへん寒く、水が至る所からしみ出しており、採掘の様子を示している人形と共にかつての鉱山内での採掘作業の苦勞を思い知らされた。製錬所付近は煙害のために植生がなくなっており、荒れ果てた山々の風景は信じ難いほどであった。1日目はこれで行動を終え、マイクロバスで日光の清滝まで送っていただいた後、路線バスで中禅寺湖畔の菖蒲ヶ浜の宿舎へ向かった。

2日目は、まず湯元温泉へ行き湯元や温泉街を見学した後、湯ノ家旅館で御主人に湯元温泉の歴

史、現状、湯、湖の水質汚濁問題についてお聞きした。御主人のお話は、開発を進めようとする立場からのお話であり、自然保護も必要だが開発もしたいという気持ちがうかがわれた。湯元から三本松までは、美しい風景を楽しみながら戦場ヶ原の自然研究路を歩いた。午後は、戦場ヶ原開拓村で開拓村組合長から開拓の歴史と現在についてうかがった。戦場ヶ原に開拓村があって農業が行われていることはあまり知られていないが、開拓村の人だけでなく、埼玉方面の農家が戦場ヶ原の農地を借りて花卉などの山上げ栽培を行っているということであった。このヒアリングの後には班に分かれて、戦場ヶ原の農地利用状況についての調査を行った。このような調査を行うのは初めてで、畑の間をずいぶん歩き回り疲れはしたものの、けっこう楽しみながら調査した。また、班によっては農家の方からすいかをごちそうになりながら、お話をさせていただいたりしたようだ。

3日目は、午前中に栃木県中禅寺ダム管理事務所でヒアリングとダム見学を行った。中禅寺ダムは治水と利水の両方の目的により建設された多目的ダムである。このダムにより華厳ノ滝の落水が停止することは減ったが、年間を通して観瀑できるようにするという日標は達成されていない。ダム見学の後は自由観察があったので、いくつかのグループに分かれて華厳ノ滝や二荒山神社を見て

まわった。午後は、まず日光国立公園管理事務所に向かった。ここでは、国立公園の制度、日光国立公園内での問題などについてうかがった。前日の国立公園内の土地を開発、利用する立場の方々からのお話とこの日の国立公園内の自然を保護していく立場の方のお話の両方をうかがって、考えさせられることが多かった。このヒアリングの後は再び自由観察があったので、東照宮などを拝観したりした。最後に、日光市役所で日光の歴史、観光、工業などについてお話をしていただいた。日光は観光都市ということが出来るが、観光による市の収入はあまりなく、かえって駐車場の整備などを行わなければならないために観光での収支は厳しいということだった。また清滝にある古河の工場では、安くて豊富な電力を使って足尾でいったん製錬された銅をさらに製錬しており、日光市には一時工場関係者が多かったが古河電工が千葉・福井に工場を新設したために工場関係者が流出して人口減少が続いているという。人口減少に対して過疎対策委員会を設けたりしているそうだが、なかなか事態は改善されないということだ。このヒアリングの後、日光市役所前で解散と

なり、帰途についた。

足尾・日光は東京から近く、特に日光は以前に旅行をしたことのある人も多くて身近な場所であると思ったが、改めて見直してみると知らないことばかりであることに気がついた。また、2つの地域を訪れたことにより、1ヶ所だけでは学べなかった点についても、比較することによって学ぶことができた。

宿舎では、各自朝早く起きて近くの竜頭ノ滝を見に行ったり、中禅寺湖畔まで散歩にいったりして、自らその場所に親しみを持つ努力をすることができたようだ。(ただお団子が目当てだっただけでも言われているが。)しかし、いろいろな場所で多くの方から説明をしていただいたのに、皆ノートをとるだけで質問をするといった積極的な面がなく、事前の勉強不足が悔やまれたという反省すべき点もある。だが、今回の巡検では班ごとに分かれて行った調査など初めて行ったこともあり、フィールドワークの重要性について改めて認識できたことは、大きな収穫だったと思う。

(9月4～6日 井内教官指導)

## 西伊豆巡検

佐藤 朗子

10月7日、8日の2日間に渡って、式先生の御指導による西伊豆巡検が行われた。

7日の午前10時20分に三島駅に集合。遅刻の者もなく、マイクロバスで最初の目的地である、柿田川水源地へ向かった。ここから川が始まっていると言われてもピンとこなかったが、川底の砂が湧き出る水で動いているのを見て、水源地であることを実感した。

狩野川放水路、葦山方面の反射が、江川邸を見学して、国道136号線を南下していった。136号線でも宇久須へ出られるのだが、いい道を通るだけでは巡検らしくないということで、湯ヶ島、持越を通る、狭くて曲がりくねった道を行った。持越鉱業所では、金・銀の精製過程を説明していただいたが、かなり専門的で頭を悩まされた。その後、

仁科峠で賀茂村の役場の方と合流し、カーネーションのビニールハウス栽培地へ向かった。途中で1度バスを降りたが、風が大変強く、寒かった。バスから見る笹が、曲がっていたのも納得できた。

黄金崎研修センターに着いてから、賀茂村の概況を説明していただいた。バスから降り、今日の前日が終わったということで一気に疲れが出てしまい、説明を伺っている時に活気がなかった。

賀茂村では、村の95%を占める山林・原野の利用法について、牧草地にしたり、桜の名所にして新しい観光地にすることを計画している。その他に「ふるさとの森づくり」が行われた。これは、都会の人に森のオーナーになってもらい、賀茂村の特別村民として迎えるものだ。また、賀茂村は